順天堂大学
先導的がん医療開発研究センター
2014 第8号
Leading center for the development and research of cancer medicine
ニュースレター

全国がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

合同フォーラムについて

1月21日(火)開催

順天堂大学　放射線治療学講座　**教授　笹井 啓資**

全国がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン合同フォーラム(FD・ポスターセッション)

さる2014年1月21日東京大学山上会館で全国がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン合同フォーラム（FD・ポスターセッション）が開催されました。
ポスターセッションは選定された全国の15拠点が一堂に会し、その取組内容の現状を広く社会へ情報発信するものでした。本学からも参加７大学の取り組みの概要、各大学院コースおよびインテンシブコースの紹介、教育内容に関して発表されました。

FDでは放射線治療が取り上げられました。放射線治療はがんプロの重要な課題で、がんプロにより教育体制が整備されてきています。しかしながら、まだまだ克服しなければならない問題点も多いためテーマとされたものと考えます。放射線治療医、物理士など放射線治療教育関係者（48名）ばかりでなく、その他の幅広い分野からも54名、合計102名の参加があり、熱心な検討が行われました。また、昼食時間中には日本で最も優れた放射線治療施設の1つである東京大学医学部附属病院の施設見学会が開催され、内容の充実と最新機器に感銘しました。

午前中は放射線治療第一線の指導者から放射線治療について解説がありました。まず京都大学平岡教授から基調講演として放射線治療の現状と将来展望についての講演があり、引き続いて粒子線治療について北海道大学白土教授、医学物理に関して大阪大学小泉教授、化学放射線治療の現状について山形大学根本教授、放射線治療の基礎である放射線生物とその応用に関して近畿大学西村教授から基礎から最先端までの解説があり、参加者一同放射線治療の有用性と将来性を理解しました。

昼食後、笹井が放射線治療分野における「がんプロ教育の現状」について日本放射線腫瘍学会・がん放射線治療推進委員会によるアンケート調査結果（主査　九州大学　中村准教授）に関して報告いたしました。

次にFDとして、参加者が各グループに分かれ「放射線治療医以外のがん治療医や他職種が放射線治療医に求めること」「放射線治療大学院教育の現状と問題点」「医学物理教育の現状と問題点」に関して討論後、その内容について発表がなされました。放射線治療の教育、診療、研究を行う者として実りある意見を聞くことができました。今回の合同フォーラムはすばらしい内容で私達放射線治療関係者にも、また放射線治療にあまり親しみのない医療関係者にも有意義な1日でした。関係各位に深く感謝しております。

第2回 臨床研究研修会（合宿）について

2/22㊍

大洗海岸病院　薬剤師　杉山 奈津子

今年の臨床研究研修会に参加して

この合宿の参加者は、がんプロの学生、そのOB、社会人公募、教員からなり、職種・学部は主に、医師、看護師、薬剤師、統計家、医学物理士、臨床検査技師等が参加する多職種合宿である。臨床では、チーム医療は近年かなり進んでおり、問題は減りつつあるように思える。そんな中、チームで臨床研究を行うための合宿を行う意図はどこにあるのだろうか。従来、臨床研究は個々の専門性の追求で行われることが多く、チームが必要な意図がわからないと思われがちだ。さらに、社会人になってから、同僚に「合宿に参加する」というと、通常は不思議に思われる。その意味が、この合宿に参加することで明らかになるのだ。

私は東京理科大学のがんプロ大学院の課程を終了し、地方の病院に勤務する薬剤師であるが、地方の現状とがんプロ参加病院の現状とかなり異なることを感じていた。今回の課題として、そのような現状を話してみよう、と思い望んだが、皆の課題発表を聞いていると、それぞれの環境で問題点や課題を実感しつつ、少しでも改善したいという気持ちで日々過ごしていることがわかった。

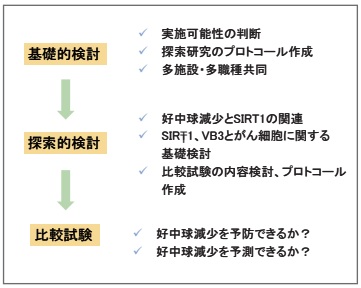
課題発表の後、その中からグループワークとして、1つのVISIONを決めなくてはならなかった。どの課題発表も非常に重要であり、なかなか一つに決められず、VISIONとMISSIONを決めるために、23時までの7.5時間を全て費やす結果となってしまった。23時以降は、会場が使えないため、チーム全員が集まれる部屋を探し、proposal sheet（臨床研究の概要書）の作成を開始した。結局、深夜までかかってやっと完成にこぎつけた。

私はがんプロ学生の間、毎年この合宿に参加してきたが、その度にいつも多くのことを学んできた。毎回、班員やテーマが異なるので、自然と自分の学ぶべき内容も異なっていた。一度参加したら、もう参加しなくてもいいかな、と思う気持ちが生じて当然なのだが、一度も感じたことがない。今後も機会があれば、何度でも参加したいと思っている。

そして今回は、近年盛んに行われてきている臨床研究において、チーム医療が必須であることを実感し、多くの実りを得て帰路についた。ぜひ、皆様にも、この実り多き合宿を一度体験していただきたいと思う。

島根大学　医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学　**助教　津端 由佳里**

がんプロ臨床研究の進捗状況



昨年の3月に第１回臨床研究チーム合宿が開催された。幸運（？）なことに私の参加したチームが最優秀に選ばれ、喜んだのも束の間、この臨床研究合宿での最終プレゼンはゴールでなくスタートなのだという現実に直面した。臨床研究のタイトルは「がん化学療法に伴う好中球減少とNAMPT活性およびSIRT1遺伝子発現に関する検討」である。この研究を、がんプロの期間内に多施設共同で実施し、なんとか形にしなければならないという使命を背負い、当初は非常に重圧に感じていたが、東京理科大学 薬学部 薬学科 製剤学教室の堀口先生をはじめとし、臨床研究合宿で同じチームのメンバーだった軽部君や鈴木君などの協力を得、まずはボランティアの血液検体を用いて、それぞれの因子の測定が可能かどうか、輸送の安定性はどうか、などの検証から着手した。実際に東京理科大学との共同作業を開始してみると、意外にスムーズに研究は進行し、現在、島根大学のIRB承認後、少人数の肺がん患者を対象とした検討を実施している。すでに予定症例数の登録は終え、測定結果を待っている段階である。あの研究合宿以来、一度も堀口先生にはお会いできていないが、TV会議を重ねることで距離のハンデを十二分に埋めることが可能であり、これこそまさにICTのチカラと実感している。本研究の進捗状況の詳細は、先日の第２回臨床研究合宿でご報告させていただいたが、今後は先導的がん医療開発研究センターからのご支援も得ながら、他の連携大学の皆様にもぜひご参加いただき、全国のがんプロでも初の共同研究結果の学会報告・論文化へ向け、この研究をさらにステップアップさせていきたい。この場をお借りして、ご協力いただいている東京理科大学 薬学部 薬学科 製剤学教室の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、近日中に連携大学の皆様へも症例の集積や測定など、ご協力のほど依頼させていただければと存じますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

平成26年度先導的がん医療開発研究センターの活動について

順天堂大学　先導的がん医療開発研究センター
助教　今井 美沙

順天堂大学と連携7大学を結ぶ臨床・研究拠点である「先導的がん医療開発研究センター」では、来年度より研究の為の情報提供ツールとして、Oncomine™ Reserch Premium Editionを導入いたします。このデータベースを本プログラムの橋渡し研究の基盤とし、専任教員が積極的に連携大学間を回り、人材交流の活性化、また医科系大学と非医科系大学間での橋渡し研究の基礎を固めていきたいと思っております。

また、海外や国内で開かれる学会に積極的に参加し、最新の研究情報を発信していく他、海外の施設との研究・研究者交流の基盤を整える予定でおります。さらに、患者の立場に立ったがん医療実現に向け、社会で活躍されている元がん患者さんを交え、女性の社会進出の観点も含めた一般市民に向けセミナーを定期的に開催し、市民にむけた情報発信にも注力して参ります。来年度も、本プログラムの拠点として先導的がん医療開発研究センターを積極的に活用していただければと思っております。

情報コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **東京理科大学　がんプロ市民公開シンポジウム**
  テーマ「不治の病から切らずに治す時代への展望と問題点」
  2013年11月29日（金）13：00～15：30　東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館地下１階第１フォーラム

- **順天堂大学　講演会**　テーマ「Notch研究の最前線～ショウジョウバエ研究から次世代抗がん剤の開発～」
  講師：米国ベイラー医科大学　山本 慎也
  2013年12月11日（水）18：00～19：30　順天堂大学センチュリータワー北3F 307教室

- **お茶の水がん学アカデミア100回記念シンポジウム～病理・腫瘍学　教授就任10周年記念～**
  テーマ「がん研究とがん対策」
  2013年12月14日（土）13：00～15：00　東京ガーデンパレス ２Ｆ高千穂

- **明治薬科大学　がんプロ国際シンポジウム**
  第1回講演：Role of the Drug Information Pharmacist at an Academic Medical Center
  2014年1月8日（水）10：50～12：10　明治薬科大学清瀬キャンパス フロネシス棟8112教室
  第2回講演：Intra-CSF administration of chemotherapy medications
  2014年1月11日（土）14：00～16：00　明治薬科大学清瀬キャンパス 講義棟104号教室
  講師：Michael Gabay, Pharm D
  Clinical Associate Professor, Department of Pharmacy Practice, University of Illinois at Chicago

- **連携大学ICT特別講義1**　テーマ「病診薬連携と地域医療、MSW」
  2014年1月16日（木）18：30～20：00　講師：島根大学　呼吸器・臨床腫瘍学　礒部 威 教授

- **市民公開講座**　テーマ「遺伝情報を知ってがんの予防ができる時代がやってくる？」
  2014年2月15日（土）13：00～17：00　順天堂大学センチュリータワー 南8階 会議室他

- **第2回臨床研究研修会（合宿）**
  テーマ「理想のがん医療・がん研究ができる未来を創出しよう！～多職種で学び、多施設連携を実現しよう！～」
  2014年2月22日（土）～ 23日（日）　順天堂大学センチュリータワー 北6階 他

- **明治薬科大学　講演会**　テーマ「がん薬物療法における薬剤師の関わり」
  講師：長野市民病院　薬剤師　久保田 豊 先生
  2014年3月8日（土）13：00～16：00　明治薬科大学清瀬キャンパス　101教室

今後のスケジュール

- **順天堂大学　シンポジウム**
  テーマ「国際教養学のすすめ－グローバル時代を生き抜くがんプロフェッショナルの育成を目指して－」
  特別講演：猪口 邦子　参議院議員、元軍縮会議日本政府代表部特命全権大使
  山本 忠道　駐ハンガリー特命全権大使、前ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
  2014年6月28日（土）13：30～16：00　順天堂大学 センチュリータワー　南8階　会議室

編集後記

２月は、東京は記録的な大雪であった。種々のものが、キャンセルとなり、外出することもなく、自宅で思いのほか、静かな勉学の時が与えられた。25年前の自分の文章に触れた。驚くべきことに基軸は、なんの進歩もなく、ただただ、文章の語彙に肉付けが付いた程度である。「人間存在」の何たるかを、静思する時となった。「文科省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業」の2日間の研修会（順天堂大学）に出席し、「閉会の辞」で、「対話学のすすめ」を語った。「人材育成の原点」の気づきでもあった。「時代を動かすリーダーの清々しい胆力」としての「人間の知恵と洞察とともに、自由にして勇気ある行動」（南原繁著の「新渡戸稲造先生」より）の文章が思い出される今日この頃である。「国民の理想とビジョンをつくり出すのは、根本において教育と学問のほかにはない」（南原繁）。まさに「一点突破、全面展開」である。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター
順天堂大学がん生涯教育センター
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1
編　集　順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン　広報委員会
発　行　順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
http://ganpro-ict-plan.jp/index.html